

ともに明日へ…

～横浜YMCA一年間の取り組み～

横浜YMCA 東日本大震災復興支援活動報告書
2012—2013



ごあいさつ

2011年3月11日、忘れることのできない日。

あの瞬間を思い出してみしてほしい。その時の自分を、職場で、学校で、自分の命、仲間の命、家族の命、遠方あるいは被災地にいる友人、家族、知人の命を思ったことを。家族や親せきを失った方々、家や財産、そして思い出すべてを一瞬にして失った方々もいる。被災地、被災者は遠い存在のように思うが、実は、私たちの身近にも悲しみの中にいる方々がいる。今も家族が仮設住宅や借り上げ住宅、知人宅へ避難している方々が神奈川県内にも数多くいる。幼い子どもや小学生、中高生などが家族を失って神奈川県に避難し、私たちの住む町で、希望を持って歩めるように多くの方々が支え見守っている。神奈川県には、津波と地震では助かったのに、原発事故の影響で帰ることができない人、子どもたちの内部被ばくを恐れて避難している人たちがいまだに2700名もいる。

東日本大震災で亡くなった方18,493名、いまだに行方不明の方2,683名、怪我をされた負傷者6,217名、そして避難している方が309,000名、その中には、家の再建、仕事の再建、家族の再建の見通しが立たないかたもいる。またまったく帰る見通し、可能性が立たない原発付近の方々もいる。なくられた方のご冥福とこれからの復興、再建、生きる希望が見いだされるよう祈りたい。

2013年3月11日、各YMCAや各地で3.11を覚え「忘れない、つながる」活動が展開され、今も続いている。そこには、1年目、2年目に言えなかったこと、今だから言えること、さらに心から湧き出る思いがある。一方で、どんどん記憶が遠ざかる。忘れていくことの怖さを感じる。そんな、それぞれの思いの中、震災の写真集、記録集、様々な震災本、復興本、震災映画、写真展、震災絆グッズが誕生している。課題や問題が山積の状況の中で、それでも被災された方々は希望を描こうとしている。一方、まだまだ希望が見えずにいる方々もいるであろう。仮設住宅の支援や復興支援、そして避難者を孤立させず、つながる支援に関わると、日常からの課題が浮き彫りになる。災害は、日ごろから課題や問題が象徴的にクローズアップされることがある。私たちは、「未来の社会を作る」「支援から共援へ」「共に支えあう関係づくり」「忘れない、つながる」「つなぐ、つなげる、つながる」ことを大切にこれからも支えあう活動を続けたい。

この報告書は大震災から2年目の横浜YMCAの記録となっています。私たちの活動を支えてくださった皆様への感謝の報告です。多くの方々からの募金、企業からの支援金、そして物資や労力を提供して下さったボランティアの皆様、祈りをもって支えてくださった皆様、被災地から私達の微力な動きに声をかけてくださるみなさま、そのつながりに感謝してこの記録を作成しました。心から感謝します。そして、被災された方々の真の復興を目指して、これらからも続く活動に今後もお力を貸していただければ幸いです。



横浜 YMCA 総主事 田口 努



東日本大震災被災状況

● 発生日時	2011年3月11日 14時46分
● 震央地名	三陸沖
● 震源の深さ	24キロメートル
● 自信規模	マグニチュード9.0
● 最大震度	7 (宮城県栗原市)
● 被害状況	人的被害 死者数 18,493人 行方不明者数 2,683人 負傷者数 6,217人
	住家被害 全壊 128,801棟 半壊 269,675棟
	一部損壊 756,743棟
	避難者数 309,000人

(総務省消防庁 2013年3月26日付データ、
避難者数は復興庁 2013年4月12日付データ)

横浜 YMCA 支援活動

● 横浜YMCA東日本大震災復興支援募金	2011年度 32,094,733円
	2012年度 10,444,478円
	累計達成額 42,539,211円
※全国YMCA募金総額	436,848,678円
● 横浜YMCAボランティア参加・派遣人数	
2011年度	ボランティア派遣人数 延べ1,872人
2012年度	街頭募金 834人 被災地への派遣 83人 キャンプ関係 86人 地域団体との協働等 178人

街頭募金活動 ~みんなの力をあわせて~

復興支援の街頭募金活動



横浜YMCAでは3.11の地震発生の直後から全てのYMCAで復興支援のための募金活動をおこなってきました。中でも、会員・子どもたち・ユースリーダー・スタッフが一丸となって取り組んだ街頭募金活動には多くの協力が寄せられました。

みんなの力を合わせたこの街頭募金活動は、この2年間で4,000万円を超えました。それは復興支援活動の大きな原動力となりました。



岩手の人々とともに明日へ…

盛岡YMCA・宮古ボランティアセンターとの協働



宮古ボランティアセンター

盛岡YMCAと協力して、宮古ボランティアセンターに2年間にわたって横浜YMCAから所長として常駐スタッフを派遣しました。夏期・冬期のキャンプリーダー派遣、短期ボランティアの受け入れ、仮設住宅への炊きだしなど、このボランティアセンターが果たしてきた役割は大きなものがあります。日本全国からこのボランティアセンターを拠点に、たくさんのボランティアが活動しています。



- 仮設住宅への炊きだし。
- 毎回大学生ボランティアも多く参加し、地域の方々に喜ばれています。



- 秋祭り。日頃炊き出しで培った腕をたご焼き作りでいかしました。
- 横浜からも依頼を受けて6名のボランティアが赴きました。



- 津波とヘドロが流れ込んだ高浜地区。
- 整地と草刈りは大切な作業です。



- 住宅街にもたくさんの流入物があります。地道に手作業で掃除します。



- 朝の通学路：信号のない交差点で子どもたちを誘導。



- 震災直後からボランティア受け入れをおこなった宮古教会。



- 宮古の魚菜市場。宮古物産展を開催する等、横浜YMCAは現在も物販にも協力しています。



●宮古での1年間をふりかえって

1年間、盛岡YMCA宮古ボランティアセンターで復興支援活動に従事させていただきました。宮古市では、ワークと呼ばれる重作業に関しては、ほぼ終息していますが、今後も宮古の地で継続して支援を続ける意味と重要性を再確認し、県外からのボランティアとも共有しながら活動を続けています。YMCAは作業第一ではなく、常に顔の見える関係を作りながら寄り添い、復興に向けて共に歩んでいます。それは震災直後から現在まで一貫して変わっておらず、今後も変わることはありません。

今の被災地の課題は日本全体の課題であるということを確認し、多くの方に関心を持っていただくことが重要です。仮設住宅での生活を余儀なくされている被災者は、ボランティアがいなくなり寂しい宮古になってしまうこと、風化して忘れ去られてしまうことを恐れています。実際に被災地に来てみないと状況はわからないかもしれませんが、遠く離れていても支援できることはたくさんあります。これからもぜひ身近なところからつながり、寄り添い続けていただくことを願っています。

横浜中央YMCA
スタッフ 大谷昭雄



宮城の人々とともに明日へ… 仙台YMCA・ボランティアセンターとの協働

南三陸町ワークキャンプ

2012年度も昨年から引き続き、南三陸町でのワークキャンプを実施しました。部分的には復興していても、完全復興にいたるまでには、まだまだ遠いことを多くの参加者たちが痛感しました。

南三陸町では津波で被害を受けた土地の整地作業が続いています。全国から多くの団体やボランティアが来ていました。

宮城県教育庁からの依頼で、YMCA専門学校から講師が派遣され、就職を希望する学生に研修や模擬面接を実施しました。



秋のワークキャンプでは、仮設住宅にチューリップの球根を届けました。ボランティアの方々がプランターに球根をセットしてお渡ししました。(写真下は昨年の開花の様子)



仙台YMCA・みやびっきの会キャンプ
横浜YMCAからも横浜YMCA学院の学生たちを派遣しました。



光州・横浜YMCA交流ワークキャンプ
韓国光州YMCAのユースリーダーたちと、南三陸でボランティア活動をしました。



袖浜漁港でのボランティア
横浜からも半年にわたってボランティアが赴きました。津波の被害から少しずつ立ち直りつつあります。



宮城県南三陸町ワークキャンプで感じたこと

横浜中央YMCA
スタッフ 品川亜耶

東日本大震災から2年以上の月日が経ちました。横浜YMCAで何度もワークキャンプなどの活動に参加をさせていただいたこと、ボランティアとして受け入れてくださったことに感謝の気持ちでいっぱいです。

長い年月が経ち、被災地はたくさんの人の努力で復興に向け動き出していると感じました。一方で、まだまだ変わっていないこともたくさんありました。瓦礫は片付けられたけれど、結局まだきれいになっただけなのかもしれません。いまだに仮設住宅での生活は続き、支援が行き届いていないこともたくさんあります。私たちにできることがまだ現地にはたくさんあります。

ワークキャンプで感じたことは、「知るということ・伝えていくこと・忘れないこと」の大切さです。今の状態を見に来て欲しい、遊びでも観光でも良いから来て欲しいと現地の方もおっしゃっていました。現地に行くことにためらいを感じたりすることもあります。私はこれからも自分にできることを探していきたいです。今回の震災の教訓を絶対に忘れないように、そして多くの人に知ってもらいたいという思いです。もっとたくさんの方に、被災地について、YMCAの支援活動について、少しでも知って考えていただけるように努力していきたいと思っています。



南三陸の仮設住宅談話室に、学童の子どもたちが描いたツリーをプレゼント。

福島の人々とともに明日へ… 日本YMCA同盟との協働

クレディスイス・富士山YMCAキャンプ

2012年度もクレディスイスの支援で、福島県いわき市の幼稚園・保育園から181名の園児と42名の職員を招待して富士山YMCAキャンプが実施されました。大自然の中で、のびのびと走り回る子どもたちがとても輝いて見えました。YMCA保育園からも36名のボランティアスタッフが参加しました。

三菱商事フレンドシップキャンプ

夏におこなった三菱商事スポンサーの富士山YMCAファミリーキャンプでは32名の参加者がありました。ボランティアも17名が参加しました。



ECP (English Communication Project)

年末に実施されたコースを対象とした英語の合宿にYMCA同盟との協力により、神奈川に避難している中学生を招待できました。参加者全員、すばらしい友情が育めました。このプログラムは中越大地震の時も同様に被災地からの参加者を招待しています。



福島の発達障がい児と家族のためのキャンプ

財団法人・国際障害者年記念ナイスハート基金との協働で、三浦ふれあいの村で実施されました。

福島からの参加者は44名。横浜YMCAからは発達障がい支援プログラムのリーダーたちが中心となって、26名のボランティアが参加しました。



クレディスイス本社訪問

キャンプの主催者であるクレディスイスが平幼稚園の園児たちを招待してくれました。

園児たちが描いたお礼の絵がとても可愛く、クレディスイスの社内廊下にも展示されていました。



●すばしかった「わかぎ幼稚園」との交流

横浜YMCA山手台保育園アルクスタッフ 遠藤弘子

2013年1月23日～25日の3日間、「クレディスイスふじさんキャンプ」に行きまして。今回招待キャンプに参加して下さったのは、いわき市小名浜にある「わかぎ幼稚園」の5歳児28人の子ども達と副園長先生はじめ4人の先生方、計32人の皆さんでした。「わかぎ幼稚園」は神社の幼稚園ですが、「子ども達がいつもと違う文化に触れることは大切なこと」と考えていますので、普段のYMCAのキャンプをしてください。」とお願いいただき、キャンプ中は食前の祈りや「朝の会」での礼拝等普段どおりに「祈り」の時を持ちました。子ども達が両手を合わせ素直に祈りの言葉に耳を傾ける姿は印象的でした。

1日目の夜はキャンプ場にも雪が舞い、2日目の朝はうっすら銀世界と化した広大な草原で、子ども達が元気いっぱい走り回っていました。昼は水ヶ塚公園での雪遊び、夜は合流したYMCA山手台保育園アルクの子ども達とキャンドルファイヤー・星空観察で交流の時を持ちました。そして3日目は冬晴れに雄大にそびえる雪化粧の富士山をバックに、みんなでお餅つきを楽しみました。盛り沢山のプログラムを終え笑顔でバスに乗り込むわかぎ幼稚園の子ども達は、いつの間にか「仲間」という存在に変わっていました。このキャンプで子ども達だけでなく、先生方がずっと抱えておられる様々な不安をひとときでも忘れ、広大な富士の自然の中で思いきり心と体を開放できたことが何よりもよかったと感じたキャンプでした。



神奈川に避難されている方々とともに明日へ… 地域の方々・団体との協働

地域団体との協力

ボランティアひとつひとつの力は大きくなくとも、それが様々なネットワークと結びつくことにより、その力は大きく広がっていきます。2012年度も横浜YMCAでは、地域のボランティア団体や教育機関と協力しあい、お互いの人材交流やプログラムの相互サポートをおこないながら支援活動を継続しました。



●守りたい・子ども未来プロジェクト

神奈川県に避難されている被災者の方々に月1回の活動を通して、孤立しないよう交流の機会を提供しています。

ミュージカルの観劇、野球観戦、正月のお餅つき会等、多彩な活動を実施。YMCAからも会場提供や、ボランティアの協力などをおこないました。

(共同代表：田口努総主事)

●ふくしまカフェ

守りたい・子ども未来プロジェクトがおこなっているカフェ。

原発事故の影響で福島から避難してきている人たちが、神奈川の地で孤立せずつながりあえることを目的に横浜市中区に開設されました。多くの支援団体が協力しています。 2014年3月末まで(予定)



●ワイズメンズクラブとの協力

横浜YMCAを支える7つのワイズメンズクラブが、各YMCAと募金活動や活動支援をおこなっています。

- ・横浜ワイズメンズクラブ
- ・鎌倉ワイズメンズクラブ
- ・横浜とつかワイズメンズクラブ
- ・厚木ワイズメンズクラブ
- ・金沢八景ワイズメンズクラブ
- ・横浜つづきワイズメン&ウィメンズクラブ
- ・横浜関内ワイズメンズクラブ

※左の写真は金沢八景ワイズメンズクラブが金沢文庫小学校で運営協力した防災教育「稲むらの火」の上映会風景



●劇団プレイバックーズ・復興支援のための講演

プレイバックシアター(即興劇)によって、被災地に思いをつなぐ。横浜中央YMCAで開催された。会の中では支援募金以外にも被災地支援グッズも販売した。

●フェリス女学院大学サマースクールプログラム

福島から子どもたちを招き、学生ボランティアたちと楽しい思い出を作る。YMCAからは安全管理体制や企画運営のアドバイスをおこなうと共に、学生ボランティアたちへのオリエンテーションもおこなった。福島からは25名の子どもたちが参加した。

●福島・子どもこらっせ神奈川の保養プログラム

福島の子を招き、リフレッシュしてもらおうという企画。フェリス女学院大学と同様、YMCAでは主に安全管理体制に関するアドバイスをおこなった。

●ワイズユースクラブ横浜『相馬看花 奪われた土地の記憶』

原発事故で失われた土地や家屋、怒りや悲しみだけに止まらない様々な思いが映像を通して紹介された。川崎YMCAと川崎運営委員会が運営協力。

●『ともだち作戦 in 横浜』への協力

「平安町町会」「平安町福祉賛助会」「平安町子ども育成会」という地域の団体が共同主催。仙台市立中野小学校と、横浜市立平安小学校の交流会を三浦ふれあいの村でおこなった。YMCAは当初より企画運営に協力をした。

●被災地を支援する神奈川県民の会

田口総主事が委員長。2011年度を振り返り、横浜人形の家で活動報告と伝承からの学び直しをおこなった。100名を超える参加者があり、防災人形劇『稲むらの火』が上演された。

●ガールスカウト研修会

ガールスカウトの定期研修会で、YMCAが上映権を持つ『3.11を生きる』を上映し、防災教育を実施した。(ガールスカウトはDVDの舞台である石巻に継続的にボランティア活動をおこなっている。)

●三陸エコプランター『花プロジェクト』

横浜YMCAと株式会社アレナが協働実施。被災地にチューリップの球根を送り、町を花でいっぱいにしようというプロジェクト。岩手、宮城、福島3県に届けられた。

被災地を忘れない・つながる 各 YMC Aの取り組みとともに明日へ…

各 YMC Aの取り組み

●YMCA ACTでおこなわれた インターナショナル・フレンドシップパーティー

このパーティーでの収益は東日本大地震の復興支援募金にあてられました。ギターやトランペット演奏、子どもたちによる寸劇など、楽しいひと時でした。



●湘南チャリティーウォーク

横浜YMCAスポーツ専門学校の学生たちが参加しました。関係者を含めて103名が戸塚駅から辻堂海浜公園をめざしました。電車の片道切符代を復興支援の募金にしようというユニークな企画です。あいにくの雨で江ノ島止まりになってしまいましたが、全校生徒の気持ちをひとつにできました。

●とつか合同クリスマス

湘南とつかYMCAと、地域の9教会が合同で実施しているクリスマス。イエスの生誕劇では子どもたちが大活躍。会場で呼びかけられた復興支援の募金活動では130名の方々が協力してくださいました。参加教会からも献金が寄せられました。



●津波防災教育『稲むらの火』

三浦ふれあいの村の主催事業として、防災教育『稲むらの火』が三浦市民ホールで実施されました。参加者数は200名を超える盛況で、地域の皆様にも大好評でした。

その後、金沢八景でも上演され、2013年には鎌倉でも上演の予定です。



●中川ひろたかファミリーコンサート

『世界中の子どもたちが』『ともだちになるために』『にじ』などYMCAでも広く歌われている楽曲を作られた中川ひろたかさんのコンサートを保育事業部主催で相模原市南市民ホールで開催しました。ここでの参加費は、いわき市の子どもたちをキャンプに招待するためにあてられます。

●仮設住宅に園児たちのプレゼント

YMCA東とつか保育園から宮古の仮設住宅に『指あみのマフラーとクリスマスカードのプレゼント』。園児たちがいっしょけんめい心を込めてカードを作成しました。



●『こたろんフェア』

横須賀市市民活動サポートセンターで実施されました。東北の障がい者施設の製品フェアで、5団体が参加されました。また、市民活動サポートセンターは2月にも『のたろんフェア』を開催し、横須賀に避難されている方々をNPO祭りに招待しました。

●湘南チャリティーウォークが教えてくれたこと

横浜YMCAスポーツ専門学校
スタッフ 長瀬徳子

東日本大震災の被災地に学生全員で赴くことは出来ないけれど、私たちにできることはなんだろう。そう考えた末にたどり着いたひとつの答えが湘南チャリティーウォークでした。被災地の方々に心を寄せることを大きなテーマに据え、帰宅難民となった当時のことを教訓に、学校の近隣の地理を覚えながら自らの足で長距離を歩く経験をしてみることやその中で学生同士の交流を深めること、地域の環境に気持ちを向けて清掃活動も同時に行うなど、たくさんの想いを込めたこの行事。YMCAの専門学校で学んでいるからこそ学ぶことのできる“募金”の意味を学生に理解してもらい、将来はまわりへ伝えていく人になってほしいと感じます。



次年度で湘南チャリティーウォークは3度目をむかえます。大震災からは2年が経ち、徐々に復興支援への想いが薄れてゆく世の流れの中で、今後は物理的な支援よりも気持ちで寄り添う継続的な支援が本当に大切になってくると感じます。直接的な支援ではないかもしれませんが、この行事が、学生一人一人が被災地支援や募金活動の意味を真剣に考え、実践する機会となるよう、そして彼らの心に残る時間にしていけるよう、これからも気持ちを込めてサポートをしていきたいと思っています。

3.11をわすれない…

2011年3月11日に発生した東日本大地震。横浜YMCAではこの大災害をわすれないよう、2013年3月に様々な取り組みを開催しました。あらためて災害の大きさを学び、私たちが今からでもできることを考え、少しでも被災地のために何ができるかを学ぶためです。

あの未曾有の大震災がけっして【過去のできごと】になってしまわないように、私たちは一人ひとりが将来に向かってこのことを発信していきたいと思ひます。

※ここに紹介したプログラム以外にも、各YMCAで一斉に募金活動がおこなわれました。

ドキュメンタリー映画 「3.11を生きて」

東日本大震災当日、石巻門脇小学校の教師は、子どもたちはどのように行動し、命を守ったのか。DVDの制作委員である森俊英氏を招待しワークショップも実施しました。〈横浜市踊場地区センター〉



子どもたちが レンズを通して見た被災地

東日本大震災発生後から今日まで、写真家のブルース・オズボーン氏はワークショップを通して被災地の子どもたちに写真の撮り方を教え、自分たちがこれからすべきことを伝えてきました。左の写真はみなとみらいギャラリーでおこなわれた写真展とワークショップの風景。

〈横浜YMCA本部事務局〉



揚がれ! 「希望の凧」

被災地の一日も早い復興を願い、各地で一斉に凧を揚げて願いを伝えました。

- 横浜：太尾見晴らしの公園
- 三浦：三浦ふれあいの村
- 静岡：富士山YMCAグローバル・エコ・ヴィレッジ

湘南とつかYMCAチャリティーイベント Heart to Heart

人形劇、親子体操、仙台の子どもたちと一緒に「すずめ踊り」にチャレンジ。会場はたいへんな賑わいでした。



戸塚ゆかりの音楽家たちによる演奏。クラシックからポップス、ゴスペルを中心としたチャリティーコンサートを実施しました。〈湘南とつかYMCA〉



特別講演会 「放射線被曝から 子どもたちを守るために」

今からできる放射能対策、チェルノブイリ原発事故での5年半にわたる医療支援と、現在も支援活動を続けている菅谷昭氏を迎え、学びの時を持ちました。〈保育事業部〉

特別講演会 「プロメテウスの罫 ～残された人々～」

朝日新聞連載記事「プロメテウスの罫 ～残された人々～」。東日本大震災における障がい児・その保護者への対応を検証する朝日新聞連載記事について、現地取材した朝日新聞記者がレポートしました。この講演会の参加費も復興支援募金にあてられました。

〈YMCA ACT〉



2012年度・1年間の横浜YMCA 東日本大震災復興支援活動状況

4月21日	劇団プレイバックーズ・復興支援のための講演が横浜中央YMCAで開催
4月24日	横浜市鶴見中央地域ケアプラザ街頭募金 JR鶴見駅東口前
4月29日	横須賀YMCA街頭募金 京急久里浜駅前
5月2日～6日	宮城県南三陸町ワークキャンプ①
5月20日	富士山YMCA 祝5周年大感謝祭で東日本大地震復興支援募金呼びかけ
5月23日	横須賀YMCA 復興支援のための手作りストラップ販売
5月26日～8月	宮古復興支援物品販売 絆ストラップ販売協力
5月29日	YMCAいずみ保育園 スプリングカフェ
6月11日～11月10日	宮城県南三陸町で訪問介護員養成講座を実施 (現地からの要請を受けて横浜YMCAから講師・スタッフを派遣)
6月13日	横浜中央YMCAでドキュメンタリー映画『3.11を生きて』を上映
6月22日	YMCA東とつか保育園で宮古ボランティアセンターの取り組み紹介
6月28日～30日	クレディスイス・YMCA富士山キャンプ 郷ヶ丘幼稚園受け入れ
7月7日	YMCA ACT 被災地支援のためのインターナショナルパーティー
7月7日～8日	三菱商事フレンドシップキャンプ(富士山YMCAに被災者家族を受け入れ)
7月19日	湘南とつかYMCA 戸塚中学でYMCAの被災地支援活動を紹介
7月21日～24日	(財)国際障害者年記念ナイスハート基金協働 三浦ふれあいの村で福島が発達障がい児とその家族のためのキャンプを実施
7月22日～24日	クレディスイス・YMCA富士山キャンプ 小島保育園受け入れ
7月23日～24日	YMCA高等学院で防災教育として映画『3.11を生きて』を上映
7月28日	YMCAいずみ保育園 サマーフェスティバルで募金活動
7月28日	横浜市踊場地区センター チャリティーフリーマーケットと東北物産展
7月30日～31日	宮城県教育庁からの依頼で『就職達成セミナー』を実施 (横浜YMCAから講師・スタッフを派遣)
8月2日～7日	フェリス女学院大学主催の保養プログラムに安全研修等で協力
8月4日	横須賀YMCA チャリティーウォーキング
8月7日～9日	三菱商事フレンドシップキャンプ(富士山YMCAに被災者家族を受け入れ)
8月7日～9日	仙台YMCA 被災者支援キャンプにボランティアリーダーを派遣
8月7日～10日	子どもの心と身体の成長支援ネットワーク被災者支援キャンプへの運営協力
8月7日～10日	福島子ども・こらっせ神奈川主催の保養プログラムに安全研修等で協力
8月9日	横須賀YMCA街頭募金 京急久里浜駅前
8月18日～20日	仙台YMCA 被災者支援キャンプにボランティアリーダーを派遣
8月20日～21日	横浜市平安町会主催の保養プログラムに横浜YMCAが企画協力
8月31日	被災地を支援する神奈川市民の会(委員長:田口総主事) 活動報告会と伝承からの学び直しを横浜人形の家で実施
9月2日	守りたい・子ども未来プロジェクト ミュージカル『キャッツ』に神奈川に避難されている方々を招待 YMCAからもボランティア参加
9月5日～7日	クレディスイス・YMCA富士山キャンプ たかつき保育園受け入れ
9月8日	YMCAマナ保育園 マナ祭りで募金活動
9月10日～12日	クレディスイス・YMCA富士山キャンプ 平幼稚園受け入れ
9月11日～13日	仙台YMCA 被災者支援キャンプにボランティアリーダーを派遣
9月12日	クレディスイス本社訪問 平幼稚園の園児を招待
9月14日	横須賀YMCA手作りストラップ販売
9月15日～16日	宮古秋祭りに横浜YMCAからボランティア派遣
9月20日～12月	Yコーポレーション (株)アレナと協働でチューリップの球根を岩手・宮城・福島 に届ける花プロジェクトを実施
9月29日	YMCA東かながわ保育園 運動会で災害支援活動グループ「サンガ岩手」から購入したエコバックを全児童にプレゼント
9月30日	守りたい・子ども未来プロジェクト 横浜スタジアムの野球観戦前に横浜中央YMCAで交流会
10月3日	YMCAスポーツ専門学校 湘南チャリティーウォーク参加 募金活動実施
10月13日	仙台YMCA・宮城県南三陸町袖浜漁協との協働ボランティア
10月28日	三浦ふれあいの村 宮古から仕入れたサンマの炭焼きと釣りをマッチングさせたファミリープログラムを実施

11月3日～4日	横須賀市市民活動サポートセンター 『こたろんフェア』開催 (東北の障がい者施設の製品フェア)
11月14日～16日	クレディスイス・YMCA富士山キャンプ 大倉保育園受け入れ
11月16日	厚木YMCA 厚木災害ボランティアネットワークと共催で『3.11を生きて』を上映 厚木市文化会館
11月19日	YMCA東かながわ保育園街頭募金 JR東神奈川駅
11月23日	三浦ふれあいの村 防災教育『稲むらの火』を上映 三浦市民ホール
11月26日	ワズユースクラブ横浜 『相馬看花 奪われた土地の記憶』を上映
11月30日～12月2日	宮城県南三陸町ワークキャンプ②
12月8日	湘南とつかYMCA 地域の教会と合同クラスマス会 募金活動実施
12月8日	仙台YMCA・宮城県南三陸町袖浜漁協との協働ボランティア
12月8日	YMCA ACT 被災地支援のためのインターナショナルパーティー
12月11日	YMCA東とつか保育園 宮古の仮設住宅へ園児たちがクリスマスカードを送付
12月26日～29日	English Communication Project(コース英語キャンプ)に被災者の方を招待 YMCA同盟主催 横浜YMCA運営 東山荘 横須賀YMCA街頭募金 京急久里浜駅前
12月27日	韓国光州YMCA・横浜YMCA交流キャンプ実施(被災地訪問)
1月11日～14日	仙台YMCA・宮城県南三陸町袖浜漁協との協働ボランティア
1月12日	盛岡YMCA 被災地支援冬期キャンプヘリダー派遣
1月12日～14日	保育事業主催 中川ひろたかファミリーコンサート実施 相模原市南市民ホール
1月14日	保育事業主催 中川ひろたかファミリーコンサート実施 相模原市南市民ホール
1月16日～18日	クレディスイス・YMCA富士山キャンプ 清風幼稚園受け入れ
1月23日～25日	クレディスイス・YMCA富士山キャンプ わかぎ幼稚園受け入れ
1月20日	守りたい・子ども未来プロジェクト 餅つき 湘南とつかYMCA
1月25日	YMCA東とつか保育園 園児たちが宮古の仮設住宅へ手作り表札をプレゼント
2月9日	三浦ふれあいの村マリンクラブ街頭募金 京急汐入駅前
2月9日	仙台YMCA・宮城県南三陸町袖浜漁協との協働ボランティア
2月9日～10日	横須賀市市民活動サポートセンター 『のたろんフェア』開催
2月28日	YMCA山手台保育園アルク ピースカフェ 募金活動
3月1日	YMCAかわさき保育園 いわき市小島保育園に『さくらカード』を寄せ書き
3月2日	YMCAあつぎ保育園ホサナ リサイクルバザー・ロバ喫茶
3月9日	藤沢YMCA街頭募金 JR藤沢駅前
3月9日	仙台YMCA・宮城県南三陸町袖浜漁協との協働ボランティア
3月10日	横浜中央YMCA街頭募金 JR関内駅前
3月10日	とつか地区YMCA合同街頭募金 JR戸塚駅前他
3月10日	湘南とつかYMCA被災地支援チャリティーイベント (被災地との文化交流と、復興支援のためのチャリティーコンサート実施)
3月10日	横浜市踊場地区センター 『3.11を生きて』を上映 DVDの制作委員を招待してのトークショーも実施
3月10日	横浜北YMCA、富士山YMCA、三浦ふれあいの村 『揚がれ!希望の風』
3月11日	つるみ地区YMCA街頭募金 JRつるみ駅前
3月11日	YMCA東かながわ保育園街頭募金 JR東神奈川駅前
3月11日	YMCAオベリン保育園街頭募金 JR淵野辺駅前
3月11日～17日	鶴見中央地域ケアプラザ 『その時を忘れない!写真展』
3月11日	横浜中央YMCA 復興への祈り 翌日からの写真展トークショー
3月12日～18日	～東日本大震災から2年～『子どもたちがレンズを通して見た被災地』 みなとみらいギャラリー
3月16日	YMCA ACT 朝日新聞『プロメテウスの罫』担当記者特別講演
3月16日	保育事業主催 『放射線被曝から子どもたちを守るために』 菅谷昭・松本市市長を迎えて
3月17日	川崎YMCA街頭募金 JR登戸駅前

※この他にも多くのイベントやプログラムが各地でおこなわれました。

これまでの主な災害と横浜 YMCAの救援活動の取り組み



● 関東大震災

発生日時: 1923年9月1日11時58分

全焼する神奈川県庁 関内地区

相模湾を震源とし、関東地方を襲ったマグニチュード7.9の地震は、東京・横浜に壊滅的な被害をもたらしました。被害は関東地方の一府六県に及び、震源域に近い神奈川では甚大な被害が出ました。横浜YMCAでは全国のYMCAの協力により、本格的な被災者の救援活動を行いました。



横浜YMCA 青年会救護所



被災児童を招いて支援活動



物資の仕分けと支給

横浜YMCAの救援活動

飲料水給与数	3,384	道案内数	1,386
休憩者数	1,508	郵便差出取扱数	35,934
各種相談数	10191	有料理髪数	96
無料理髪数	398	慰問品数	1,515
巡回慰問数	3,686	牛乳配給量	1,115
牛乳配給数	642	手紙代筆数	288
私製ハガキ取次数	2,629	シャベル貸出数	428
切手ハガキ取次数	3,158	ツルハシ貸出数	11
リアカー貸出数	140	荷車貸出数	80
クワ貸出数	64	相談等来訪者数	2,067
手荷物預数	104	喫茶店利用数	4,549
傷病者手当人数	204	会場奉仕人数	377
児童活動参加者数	2,000		



● 阪神・淡路大震災

発生日時: 1995年1月17日5時46分

1月17日早朝に発生した大地震は、大きな被害をもたらしました。横浜YMCAでは、1月18日から支援募金の受付を開始すると共に2月1日から延べ15人の職員・講師を4泊5日の日程で西宮YMCAに派遣しました。2月26日から第一陣として、県内に在住する19歳から51歳までの社会人ら17人を「第1回ワークキャンプ」に派遣しました。以後、全国のYMCAと協力して8月末までに、西宮YMCA

Aの隣接地に建設されたボランティアハウスを使用して、ボランティアを5泊6日の単位で25期にわたり派遣を続けました。



● 中越地震・中越沖地震

発生日時: 2004年10月27日17時56分

発生日時: 2007年7月16日10時13分



2007.07.25

横浜YMCAでは、ボランティアセンターの立ち上げと運営のためにスタッフを派遣したほか、神奈川県災害ボランティアネットワーク、横須賀、横浜、川崎の各ネットワークと協同で、「新潟県中越地震横浜・災害ボランティアバス派遣実行委員会」を立ち上げ、11月12日～14日、19日～21日の2回にわたって市民ボランティアを募集し定員を上回る150人を派遣しました。その後も年度末までボランティアバスの派遣を継続しました。



横浜YMCAの最新の東日本大震災復興支援活動は、横浜YMCAのホームページでもご覧になれます

<http://www.yokohamaymca.org> 「東日本大震災復興支援活動」

横浜YMCA —私たちの使命—

横浜YMCAに連なる私たちは、イエス・キリストの生き方にもとづき、人間性が尊ばれ、公正で平和な世界の実現を目指し、地域社会に深く根ざしてすべての活動を展開します。

1. 異なった文化、民族、思想、信条を尊重し、共に助け合って生きていく世界を築くことにつとめます。
2. 愛と奉仕の実現のためにボランティア精神をつちかい、人びとに仕え、共に助け合って生きていく世界の実現につとめます。
3. 神によって与えられたすべての自然の生命と人間の生命を大切にし、共生していく世界を築くことにつとめます。
4. 人びとの間に自由、平等、正義が尊重され、差別や貧困のない平和な世界をつくりだすために共に力をあわせて働くことにつとめます。
5. 世界の人びとと積極的に交流し、協力し合い、分かち合い、人間性の尊ばれる地球社会をつくり出していくことにつとめます。

横浜YMCAは、被災地の人々と明日に向かって、継続した支援に取り組みます

横浜YMCAでは、これからも全国のYMCAおよび、被災地にあるYMCAと協働して被災された方々への支援活動を継続していきます。集められた募金は、日本YMCA同盟を通して被災地へ、また、横浜YMCAが行う救援、復興活動に用いられます。皆様のさらなるご支援とご協力をお願い申し上げます。

● 募金の方法

1. 神奈川県内の最寄りのYMCA窓口にて受付ています。
2. 郵便振込み 郵便局に備え付けの振込用紙にてお振込みをお願いいたします。
店番号：029 口座番号：00230-8-2878 加入者名：財団法人横浜キリスト教青年会
※通信欄に「東日本」ご明記ください。

● ボランティアの希望

個人、企業、学校など、ボランティア活動、その他支援のご希望がありましたら、下記までお問い合わせください。

〈問い合わせ先〉 横浜YMCA 東日本復興支援担当 TEL.045-662-3721 梶谷・高村



横浜 YMCA

The Young Men's Christian Association Yokohama

〒231-8458 横浜市中区常盤町1-7 TEL：045-662-3721

e-mail hamaymca@yokohamaymca.org

<http://www.yokohamaymca.org>